

『錦繡』にまつわる一問一答

『錦繡』にまつわる背景やエピソードなど、読者からの質問に宮本輝氏が答えました。

タイトルに「錦秋」ではなく、「錦繡」という言葉を選ばれた理由は？

同じ「シユウ」でも「秋」と「繡」とでは意味が違います。そこそこは、読者の感性に委ねたいのです。

宮本さんにとって瀬尾由加子はどんな女性でしょうか？

由加子は少女期から容姿に恵まれた女性のひとつの典型として書きました。私も美人は嫌いでありませんが、由加子のような女は少々しんどいですね。由加子も違う生き方ができたはずですよ。

「友人と蔵王に行くことになったいきさつ」
蔵王を選ばれた理由は何でしょうか？

ただ旅をしたかっただけで、場所はどこでもよかったのです。友人も私も東北の地には縁がなかったもので、それならば蔵王に行こうという事になりました。そのときは、また『錦繡』の構想はありませんでした。作家にとって「旅」がいかに大切かをいまさらながらに痛感します。

「錦繡」という物語が生まれた背景には、
宮本さんの「病気の発見とも関わりがあるのでしょうか？」

二十代に病気で常に死を意識した日々をおくったお蔭で、私は『錦繡』という小説が書けたのです。物語の中でモーツァルトの音楽が出てきますが、モーツァルトの音楽への思い入れなどがあればお聞かせください。

モーツァルトの音楽は観念的ではありません。わかりやすく心地いいのです。私は難解なものには信用しません。若いとき、モーツァルトを集中して聴いたことがあって、その折、彼の音楽の中に「命」というものを強く感じました。その感覚を重紀に語らせました。

「生と死」について、『錦繡』執筆当時と現在では、
年月を重ねて考え方に変化はあるのでしょうか？

今も変わりませんが、年齢とともに、
そのことについても表現の幅がひろがっていると感じます。
表現の仕方についてもいいかと思えます。

主人公、登場人物の名前はどのように決めていらっしゃいますか？
（『錦繡』に関わらず、思い入れのある名前などはありますか？）

名前については、いつも悩みます。
小説に使うような名前をみつけるのはお墓がいっぱいいです。

「錦繡」は宮本輝作品の中で最も人気の高い作品のひとつですが、
その人気が高い理由についてどのようにお思いでしょうか？

書いた本人にはその理由はよくわかりません。なにしろ三十四歳のときの作ですので、
若さからほとぼしる何かが多くの人に支持されつつけているのかもしれない。

経験されたことのない状況（例えば離婚や、
女性の視点からの文章を描かれる際、
参考になさるようなことはあるのでしょうか？）

私は男ですので女であることを経験することはできません。
作中で女を書くとき、私はその女に憑依するしかありません。
その瞬間その人間と化して書く、としか言いようがありません。

「錦繡」という作品についての想いをお聞かせください。

『錦繡』は私を作家として鍛えてくれた小説です。
書き出しの数行を書いて、そのあと二年間、
一行も書けませんでした。そのつづきの二行を書いたとき、
私は小説を書く精神力をつかんだような気がしました。
『錦繡』が百数十万の方々に読まれたことについて、
深く感謝しています。



宮本輝

平成二十年十月